

# 2013年度 初年次演習まとめ

対象 1年生 16名

担当 近藤裕幸(社会科教育講座)

## 1 当初の計画

- \* 1 目的:「高等学校までの受動的な学習から大学での能動的な学びへと転換させるために、専門教育への橋渡しとなる基本的な考え方や方法を修得する」
- \* 2 4つの観点:「大学での学びのために、基本的な技術や思考方法を身につけ(知識/理解)、世の中のできごとや他者の意見に興味をもち(関心/意欲)、他者とともによく考えたのち自分の考えをまとめ(思考/判断)、それを発言・発信する(表現)」

部 (回)	テーマ
I部 導入 (1-2)	「大学の先生はそんなに親切じゃない」 (1 オリエンテーション / 2 高校と大学のちが い)
II部 獲得する (3-7)	「入力しなければ考えることもできない」 (3 書く / 4 質問する / 5 図書館利用法・著作権 / 6 要約 / 7 教養とは)
III部 思考する (8-9)	「ひとりで考えるよりもみんなで作るといいこともあ る」 (8 ミニディベート / 9 ゼミとは)
IV部 まとめる (10-12)	「書くことで考えを整理できる」 (10 レポート① / 11 レポート② / 12 レポート③)
V部 発信する (13-14)	「考えた事を人に伝えなければ意味がない」 (13 発表① (実技) / 14 発表②)
VI部 未来をみる (15)	「いきあたりばったりの人生ではいけない」 (15 4年間のライフデザイン (夢を語る))

## 2 結果(「導入」)

		テーマ	主な内容
1	4 / 9	オリエンテーション	(自己紹介)
2	4 / 16	高校と大学の違いを 知る	「高校と大学の授業の違いを体感する ことが目的である。具体的には、学術 論文をもとにした講義、その後、それ を高校の授業風にアレンジした授業を うけ、その違いについて話し合う」 (その前に名札作りあり)

## 2 結果(「獲得する」)

書く+インタビュー+図書館+要約と書評+著作権

		テーマ	主な内容
3	4/23	「書く(ノートのとり方)」	内容:【ワーク】大学での講義ノートをもとに再現する→【講義】ノートの取り方のポイントを講義する(略語の使い方等)→【ワーク】文章を読み上げ、ノートをとる練習をする。
4	5/7	「インタビュー(質問する)」	【講義】インタビューのポイント→【ワーク】インタビュー練習①→(第5回 調べる①「図書館の使い方」)
5	5/7	図書館	図書館での調べ方を学ぶ
6	5/14	「書評を書く」(要約+批評)	【講義】「書評」について→【ワーク】書評を書く
7	5/21	「著作権」	【ビデオ?上映】「著作権」

## 2 結果(「思考する」+「まとめる」)

ディベート(反論に対する反論)⇒レポートを書く⇒ゼミ形式で検討

8	5/28	「ミニディベート」	【前時の復習】「著作権」→【講義】「ディベートの効用」→【演習】ディベート
9	6/4	「ミニディベート(つづき)」と「レポート①」	【演習】「ミニディベート」(つづき)→ミニディベートのまとめ(何が大切か)【講義】「レポート①」:基本スタイルを確認する
10	6/11	「レポート②」	【講義】「レポート②」(書式・注など)【演習】レポートを書く
11	6/18	「論文とは何か?/ゼミとは何か?」	【講義】①論文とは何か? ②ゼミとはなにか?【演習】①「レポート」をゼミ形式で検討する。②パワーポイント使い方
12	6/25	「レポート③」「パワーポイント」	【演習】①「レポート」をゼミ形式で検討する。②パワーポイントでスライドを作る。

## 2 結果(「発信する」)

### パワーポイントによる発表 と 質疑応答

		テーマ	主な内容
13	7/2	発表①	【演習】 (レポートをパワーポイントにして発表する；発表5分+質疑応答5分)
14	7/9	発表②	【演習】 (レポートをパワーポイントにして発表する；発表5分+質疑応答5分)

## 2 結果(「未来をみる」)

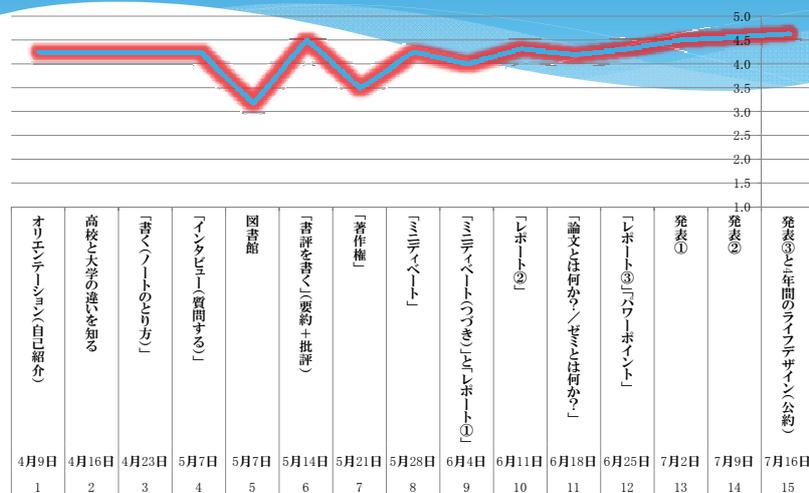
### 夢を語る「卒業時にどうなっているか?」「そのために何をするか?」

		テーマ	主な内容
15	7/2	発表③と4年間のライフデザイン (公約)	【演習】 (前；30分) 発表③ (レポートをパワーポイントにして発表する；発表5分+質疑応答5分) (後；60分) 4年間のライフデザイン (公約)

## 2 結果(できなかつたこと)

- \* 1 第7回(Ⅱ部):「調べる3(自分を広げるために)」:興味のない分野(社会科関係以外など)の本を読み、自分の裾野を広げる。読書をする習慣について考えさせ、教養の必要性についても講義する。(ディベートに時間をとられてしまい、指導できず)
- \* 2 第13回(V部):「発表する1」:声の「大きさ、高さ、速さ、音色、間(ま)」を意識した話し方の練習をする。  
実際に体を動かしながら、さまざまな活動を行う。(→発表内で指導)
- \* 3 授業自己評価をやったりやらなかつたり…。
- \* →最後に自己評価をしてもらった

## 3 学生の評価 (5よかつた 3ふつう 1だめ)



### 3 学生の評価 「一番役にたったものは何か」

高校と大学の違いを知る	(1) 「高校生気分がガラリとかわった」
「書く(ノートのとり方)」	×
「インタビュー(質問する)」	(1) 「質問を自分で考え、素早くメモ、それを発表⇒表現力が試された」
図書館	×
「書評を書く(要約+批評)」	(2) 「教育原論の課題に役だった」「読書感想文とは違うことがわかった」
「著作権」	×
「ミニディベート」	(3) 「声の大きさ、話し方の重要性がわかった」「情報の信憑性アップの方法を知った」「相手の意見を尊重する大切さ」
「レポート」	(5) 「他の授業で役立った」「基礎的(形式・注など)なことがわかった」「組み立て方がわかった」「添削してもらってコツがつかめた」
「論文とは何か? / セミとは何か?」	(1) 「いろいろわかってよかった」
発表	(5) 「発表が初めてだった」「質疑応答が役立った」「スライドの作りかた」「発表の難しさを知れたこと」「スライドをつくったのは初めてだった」
4年間のライフデザイン	×

おわり

16人の1年生に感謝します。